

塾報 しゅうめい



「修明塾報」発刊にあたって — 生まれ変わる修明塾 —

修明塾 塾長 上谷 恭範

修明塾は今、創立45周年を迎えています。紆余曲折を経た45年の歳月を、多くのご父母、塾生、地域住民の皆様、そして教師を含む周りの方々が支えて下さいましたお陰と感謝している日々でございます。この期に及んで私達が皆様に何のお返しができるかをこの塾報を通じ発信し実践していきたいと考えています。

修明塾の教育理念は「学問の研鑽と人格の陶冶」を目指す人間教育です。この理念を具現化するため、今、次のような業務を行っています。

- (一) 生徒の希望に合わせた日時・曜日で勉強習慣を身につけ、基礎学力の徹底化をはかり、学年でトップグループに入ることを目指すドリームスクールを設置しました。(二) 小学・中学・高校受験科においてはひたすら志望校に合格するための勉強方法を教授することにいたしました。(三) 当塾にお気軽に来ていただくための「サロン教室」を開いています。当面12月23日(天皇誕生日)にはクリスマス会、来年3月3日(土)には、日本フィルコンサート(歌曲と弦楽四重奏)を予定しています。(四) 地域の安心と安全を守るため、修明セキュリティの警備員がパトロールをしています。10月23日(日)の柳橋町会マラソン大会には交通誘導のため参加いたしました。また今年の年末特別警戒の夜のパトロールにも住民の方々と一緒に夜回りをする予定です。

45周年を期に今、私も教師達は燃えています。保護者・生徒そして地域の住民の要望に応える新生修明塾をこの塾報にて発信しようとしています。またみなさまからの提言・苦言・ご要望その他をも掲載し、教師・保護者・塾生徒が一体となって有意義かつ楽しい塾報をつくっていききたいと思っています。

第1号
平成23年12月10日
発行人 塾長 上谷 恭範
〒111-0052
台東区柳橋1-26-3
TEL 03(3862)9218
<http://www.syumei.co.jp>

今、中学受験に向けて

脇田 良子

〈受験生〉

二期期の学校行事も終わり、これから冬休みをどのように過ごすかで可否が決まると言っても過言ではありません。

弱点を克服し、合格点を手に入れる為、左記の事を行って下さい。まず最初に、今までの模擬試験で出来なかった問題、間違えた問題を各教科ごと(特に理科社会)に見直し「弱点リスト」を作成します。次に、書き出した「弱点リスト」を基に、必要な知識の「暗記カード」を作成し、常に手元に置き、繰り返しチェックし覚えましょう。「弱点リスト」「暗記カード」の作成には、保護者のご協力をお願い致します。

自分の夢、希望を実現するには、努力と忍耐、集中力、持続力が必須です。冬期講習で思う存分勉強し、自信を持って受験日をむかえましょう。

〈保護者の皆様〉

願書等の入手、写真等の準備は年内に済ませておきましょう。(出来れば願書の下書きも)

冬休みは受験生にとって、じっくり学習出来る最後のチャンスです。「急がばまわれ」のことわざのようにもう一度基礎をしっかりと見直し、弱点補強をさせて下さい。一点が可否に関係して来ます。小言を言いたい気持ちを抑え見守って下さい。生活リズム、体調管理には手を貸して下さい。勉強面は塾にお任せください。お子様、ご家族、教師三者の力を結集し、合格を手を致しましょう。

受験生以外の塾生の過ごし方

出井 寛太

風邪のシーズンがやってきました。みなさんは風邪などひいてませんか? 風邪をひくと勉強もうまくいかなくなってしまうます。まず体調の変化には十分気を配ってください。

冬休み中はお家にいたり外に出かける時間が増えますが、学校でしていたことは、冬休みでもしっかりとやりましょう。ご挨拶、早寝早起き、正しい姿勢、片付け、手洗い、うがい。みんな大事ですが、一番大事なのは、「人への思いやり」です。学校でも、お家でも、お外でも、しっかりとやってください。注意してくれる先生がいないぶん、自分ががんばらないといけませんね。

勉強は、自分からやること。自分で勉強するクセ(勉強習慣)が身に付けば、お家の人にうるさく言われなくても、勉強できるようになります。みんなは驚くかもしれないけど、「できる子」と「できない子」の違いはたったそれだけです。毎日の積み重ねで、本当に大事なんですよ。

ドリームスクール設置のご案内

塾長 上谷 恭範

今年45周年を記念してご案内したとおり、ドリームスクールを開設することにいたしました。幼児部門から中学2年生までの保護者並びに生徒さんのニーズに合わせた曜日、日時、低廉な受講料で質の高い授業を行うことを目的としたドリームスクールです。

幼児部門は、お母様のお手伝いをするクラスです。日常生活のしつけ、勉強の基本のしつけ、そしてともだちとのあそびを通して公共性を身につけることを目的としています。

小学1年生から中学2年生までは、正しい生活規律と勉強習慣をつけ、勉強とあそび、部活を両立し、学校の成績はトップグループに入ることを目的としています。

小学受験・中学受験・高校受験・大学受験を志す方々には、志望する学校に合格すること、その他個別指導・家庭教師をご希望の方々には、ニーズに合った指導をいたします。

お子様はみなさまの大事な宝であり、社会の宝なのです。だからわが子を心身ともに健全に一步一步成長させていく必要があるのです。今のうちに正しい生活習慣・勉強習慣の基礎基本をみなさまとともに身につけさせようではありませんか。

※ 浅草橋教室は12月から、
高砂教室は1月から開講いたします。

行事予定

- 12月22日(木) 12月通常授業終了
- 12月23日(祝日) クリスマス会(本部)
- 12月26日(30日) 冬期講習・一期
- 12月31日(1月3日) 年末年始 休講
- 1月4日(8日) 冬期講習 二期
- 1月10日(火) 1月通常授業開始

家庭教師のSSSの設置について

家庭教師のSSS（スリーエス）は「Self-Study-Support」の頭文字を取って命名され、「Self-Study」が「自学自習」「Support」が「支援」を意味する通り、家庭教師のSSSの設置目的は、家庭学習の支援ということにあります。

ここで家庭学習の支援とは、単純に教師が自宅で指導することだけでなく、教師がいない間も生徒が自立的に勉強できることを重視しています。もちろん我々の第一義的な使命は、生徒の学力を上げ第一志望校に合格させることにありますが、家庭教師のSSSでは結果のみならず、そのプロセスも重視するという特徴があります。

目標を設定すると、その目標を達成するために必要な課題が必ずと浮き上がってきます。それらの課題を教師が生徒に与えるのではなく、生徒が自ら課題を整理し、日々の自立学習ができる状態になるまで、教え導くことが当会の役目になります。最終的には一人一人の生徒が、家庭教師の助けを不要とするまでに、自立して勉強できるようになることが、当会の理想とする姿になります。

学びは本来、人にとって欠かせない大切なものです。学びは、世界を主体的に生きる手段として、本人の意欲のもとに従えられるものでなくてはなりません。しかし、現状と言えは多くのお子さんが、単なるルーティーン（routine）として、日々の勉強に隷属させられているといったような場合も少なくありません。一人一人の生徒が主体性に目覚め、目標に向かって勉強すること。学びを自分の手にすることで、自分の無限の可能性に気づくこと。当会の教師との出会いが、お子さんにとって良い転機をもたらしたならば、それに勝る喜びはありません。



寺川 豊

平成23年度私立小学校受験を終えて

10月末から始まった私立小学校の試験は、全ての小学校で終了し、国立大附属小学校の試験を残すのみとなりました。

23年度の私立小学校合格者は、国府台女子学院小学部1名、昭和学院小学校1名という結果に終わりました。

今年の私立小学校受験を振り返り思う事は、「一定の準備期が必要である」という事です。今回合格された方は、受験する事を早い時期に決めて教室通いを始めています。受験する小学校も早くに決まり、子供とご家族と教室での取り組みができていました。

学習面に関しては、短時間の訓練でもある程度は解ける様になってきますが、今、一番重要視されている生活面に関しては、短時間で身に付くものではありません。教室で見つけた改善点をご家族に伝え、修正して行く。子供にしてみると、今まで良かったものがダメになる訳ですから、新しい約束を着実に身に付けるまでにはたくさん時間が必要になるのです。

靴をそろえる、遊んだ後は片付ける、脱いだ服はたたむ等、年少時から少しずつ取り組ませ、当たり前前の習慣にして頂きたいと思えます。これらの事は受験のためだけでなく、生きて行く上で必要な基本的な生活習慣です。子供達が自立するための土台になります。

受験をお考えのお母様、ぜひ早目にお教室に通う事をお勧めします。子供とご家族と教師の三者が一体となった時、「合格」を手にする事ができます。

谷本 美和

塾報1号コラム

先月、ブータン国王夫妻が国賓として来日されましたが、ブータン国は従来の国民総生産（GNP）に代わる指標として国民総幸福（GNH）という概念を提唱した国であり、慶応義塾大学は、国民総幸福という独自の概念を世界に普及したことを評価し、同国王に名誉博士号を授与しました。仏教的な思想を背景に持つ、この国民総幸福の考えは、リーマンショックに端を発した全世界的な金融危機の影響もあり、現在世界から高い関心を集めています。

歴史を遡れば、日本が旧来の仏教的な世界観から脱却し、西欧の枠組みを受け入れ始めたのは、明治以降であるという認識でおおよそ構わないかと思えます。明治維新当時の日本にあつては、進歩と強国への思いに駆られるあまり、精神的な豊かさについてはほとんど顧みられないまま、西欧的な枠組みの下で、現在まで発展を続けてきました。戦後の急激な経済発展を経て、日本は物質的な豊かさを手にした一方で、全世界的な金融危機や、うつ病に代表される精神病に起因する社会問題の発生など、現体制の問題点も徐々に浮き彫りになってきています。

ブータン国王が慶応大学で講演されたように、「真の発展とは何か」という問いについて、私たちは真剣に向き合うべき時が来ているのかもしれません。

寺川 豊

11月20日、浅草橋駅の隣にあった明正堂書店が閉店しました。中学受験の時に浅草橋教室に通っていた私も利用していた。15年くらい前でしょうか。学校が終わり、すぐに塾に行く生活だった私にとって電車に乗っている時間は読書の時間でした。当時の私は歴史小説が好みで、明正堂書店で父に山岡荘八の『織田信長』を買ってもらったことをよく覚えています。勉強漬けの毎日でしたが、移動時間での読書はオアシスとも言える時間でした。

受験生の皆さん、結果が出るまであと僅かです。がんばってください。

御厨 裕貴



2011年が、後20日あまりで終わろうとしています。私は最近、学生時代から今日まで読んだ本を、もう一度読み直そうと始めました。本の題名と作者名は覚えていても内容は定かではありません。とりあえずの一冊として選んだのは、有吉佐和子著の「恍惚の人」です。少子高齢化が問題になっている現在、タイムリーな本だと思います。（まあ、高齢に近づきつつある内なる自分が欲したのかもしれません。）

金子 義一

冬至の日

十二月二十二日は、二〇一一年で昼が最も短く、夜が最も長い「冬至」です。私たちの住む東京では、日の出が六時四十六分頃、日の入りは十六時三十三分頃で、昼の長さは九時間四十七分くらいだそうです。

この日は太陽の高さも一年で最も低くなって日ざしが弱くなります。冬に寒くなる理由の一つですね。昔の人々は、冬至の頃を「生命の終わる時期」と考えていました。植物が枯れ、動物達は冬眠をするから食料が足りなくなる。日照時間も短いので、太陽からの恵みを受けにくくなる。だから不安を感じていたのでしょうか。そこで、不安を取り除こうと無病息災を祈り冬至かぼちゃを食べたり、香りに邪を祓う霊力があると信じられている「柚子」のお風呂に入るなどしていたそうです。この習慣は現在も続いていますね。

だんだんと寒くなってきました。冬至の日にはかぼちゃを食べ、柚子湯に入って体を温めましょう。そして、一年間元気に過ごせるようにと家族で会話を楽しんでみるのも良いですね。

谷本 美和

